

いまにつながる信仰とねがい

ズ ナ イ ミ ヨ ウ ジ ン

身近ないのり～住内明神～

や し き が み

洞口家では屋敷神として、古い石碑を敷地の北西に祀っています。

い た び

石碑は板碑と呼ばれるもので、洞口家のものは元応2年（1320）に建てられたものです。

げ ん お う

名取地方では、板碑を家の守り神とし

て祀ることが多く、ズナイミョウジンと呼んでいます。



洞口家 住内明神

いまにつながる信仰とねがい

～名取老女伝説と民間信仰～

名取は古くから東北地方における熊野信仰の中心地でした。下余田にある名取老女の碑や熊野三社、閑上でのお浜降り神事などは、幅広く一般にも信仰されていたことを示す存在です。

下余田地区には名取老女のもものと伝わる石碑があります。伝説によれば、老女

は紀伊国きいのくに（和歌山県）まで毎年お参りに行くほど、熊野権現くまのこんげんを深く信仰する女性でした。彼女の信仰心はやがて人々を感化し、名取熊野三社の誕生へつながりました。



名取老女の墓



名取老女の碑

文化8年（1811）に建てられたもので、老女の伝説にあやかり、旅の神様として地域で信仰されてきました。現在でも社には奉納されたワラジやゾウリが残されています。

いまにつながる信仰とねがい

～老女のいのり～

能楽の演目の一つに「名取ノ老女（別
名護法）」があります。

寛正5年（1464）に公演の記録があ
りますが、明治時代には廃曲はいきょくとなってい
ました。

名取老女伝説をもとにしたとされる演
目で、名取と熊野の地が「いのり」によっ

て結ばれ、「希望」への道が開かれるとい
う大きなテーマを見ることが出来ます。

東日本大震災からの復興へのねがいと
して、平成28年に国立能楽堂で復活公
演が行われました。

特別企画公演 復興と文化 特別編 — 老女の祈り —

平成28年
3月25日(金) 午後6時30分開演
3月26日(土) 午後1時開演

復曲能
名取ノ老女

毛越寺の延年 老女

復曲能 名取ノ老女

監修・台本作成 小田幸子・小林健二
出演 25日 梅若玄祥・宝生和英
26日 大槻文藏・金剛龍謹

国立能楽堂

熊野権現影向園(僧王法林寺蔵)より



国立能楽堂 復興と文化 特別編 名取ノ老女（国立能楽堂提供）

身近ないのり～絵馬～

願いや悩み、暮らし方など身近な生活を伝える資料の一つに絵馬があります。牛野にある子安延命地蔵堂には、子育てにご利益りやくがあるとして、古くから名取やその近隣の地域に知られていました。堂内には安産祈願のために奉納ほうのうされた枕、母乳の出が良くなるように米を詰め乳房をかたどったものなどが奉納されています。

す。

地蔵堂では、子育てに関する絵馬が多く納められており、親子で祈願する姿を描いたもの、ボールで遊ぶ子どもを描いた絵馬などが見られます。



牛野地藏堂

身近ないのり～カマガミ～

洞口家では、カマバシラ（カマド北東の柱）にカマガミという神様を祀まつっていました。

カマガミは宮城県および岩手県の一部地域で見られる台所の神様で、家を建てる際に大工や左官さかんによって製作されたと言われていています。

今では作られることはなく、工芸品と

して残されています。



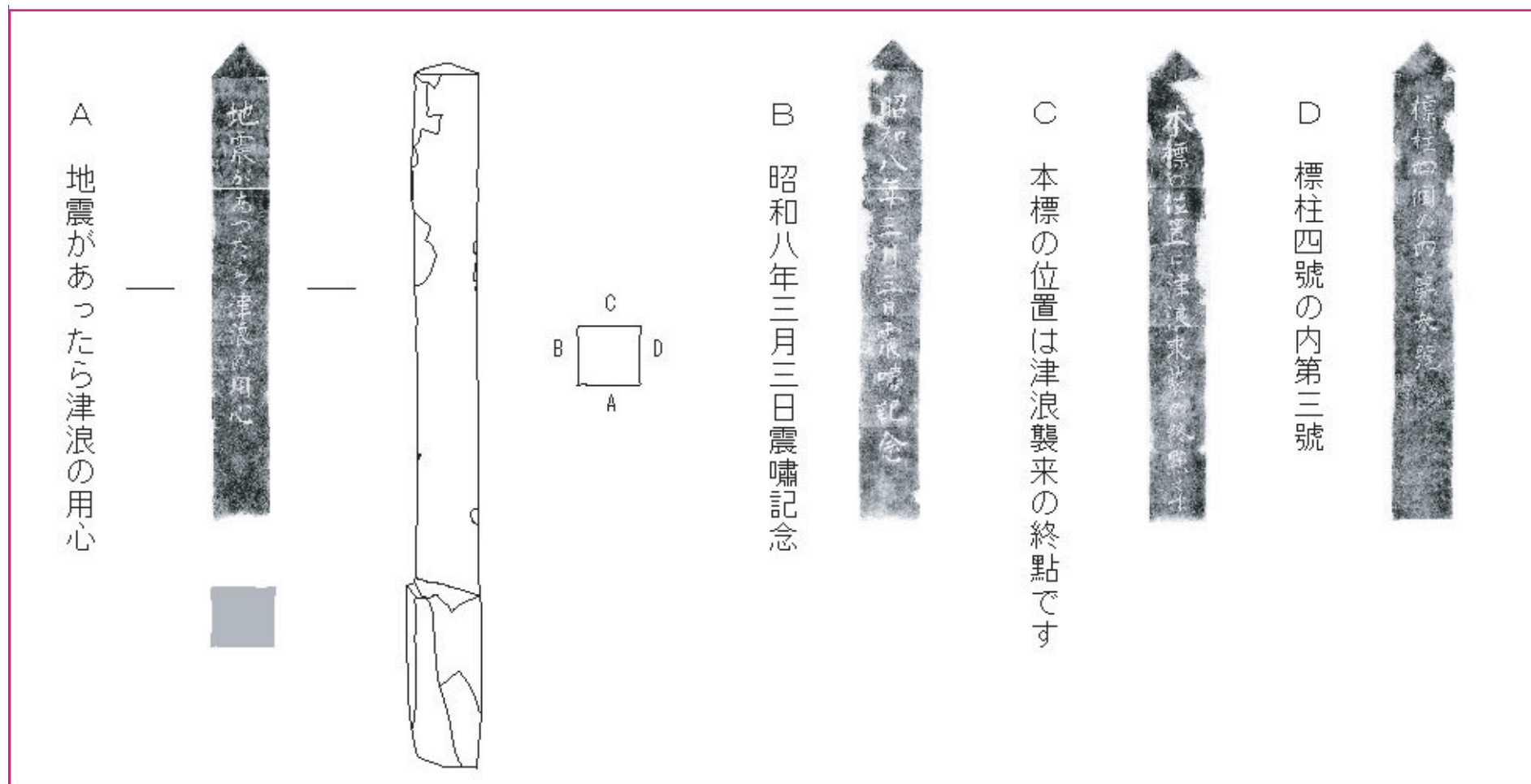
洞口家 カマガミ

復興へのいのり

～発見された昭和三陸津波標柱～

市内には昭和8年（1933）三陸地震の後に建てられた津波碑1基と標柱^{ひょうちゆう}1基が残されており、平成26年10月に市登録文化財^ひとなりました。標柱は碑文^{いぶん}から第1～4号の計4本建てられたことがわかっていましたが、正確な場所や設置年、経緯などは不明でした。

ところが、偶然にも平成28年3月11日に貞山堀の底から第3号の標柱が発見されました。



津波標柱の拓影

日和山

宮下橋

出土地点

名取川



津波標柱の出土地点

復興へのいのり

～標柱の記録からわかったこと～

標柱発見後の資料調査の結果、昭和8年の閉上町役場の記録中に、津波碑と4本の標柱それぞれの設置場所が記されていることがわかりました。これによれば、発見された3号碑は宮下橋南詰付近に建てられたものであることがわかります。

津波碑と標柱が合わせて設置されるこ

とは他の地域ではあまり例がなく、具体的に津波到達地点を明らかにすることによって、より効果的な警鐘^{けいしょう}を図り、津波に対する防災意識を高めようとする意思が伝わってきます。

震災復興事業に伴う調査

2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災した沿岸部の復興のため、多くの事業が行われてきました。事業の規模は住宅の再建や宅地造成など中・小規模なもの、区画整理やほ場整備など大規模なものまで、さまざまです。

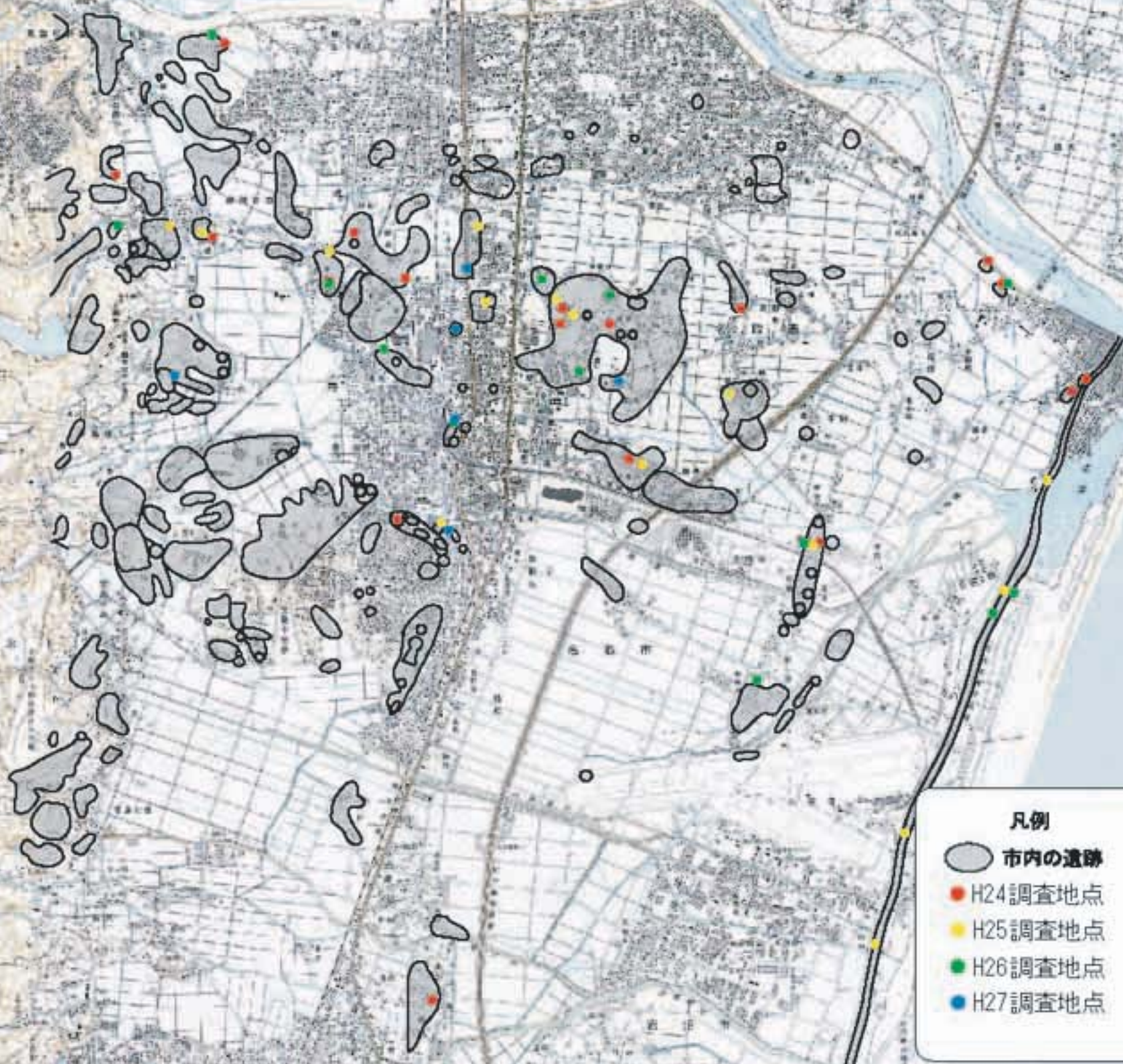
これらのうち、まいそうぶんかざいほうそうち埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に影響があるものは、事前に発掘調

査を実施し、記録を残しています。調査は復興事業の性格を踏まえて、必要最低限の内容にとどめています。

開発に伴う埋蔵文化財の事務処理・開発対応件数一覧

年度	開発に伴う埋蔵文化財の 発掘届・通知受理件数		開発に対する対応内容の内訳				発掘調査実施件数		調査原因となった事業内容の内訳			
	発掘届 (民間事業) 受理件数	発掘通知 (公共事業) 受理件数	発掘調査	工事立会	慎重工事	その他	全体 ※通常事業 を含む	復興事業 関連調査	個人住宅	宅地造成	区画整理	その他
H24	66	5	36	29	4	2	35	16	13	1	1	1
H25	109	8	54	60	3	0	48	19	15	0	0	4
H26	86	3	37	50	2	0	53	19	6	3	1	9
H27	71	12	34	46	3	0	30	6	4	1	1	0
計	332	28	161	185	12	2	166	60	38	5	3	14

震災復興事業に伴う調査地点



凡例

- 市内の遺跡
- H24調査地点
- H25調査地点
- H26調査地点
- H27調査地点

～上余田遺跡～

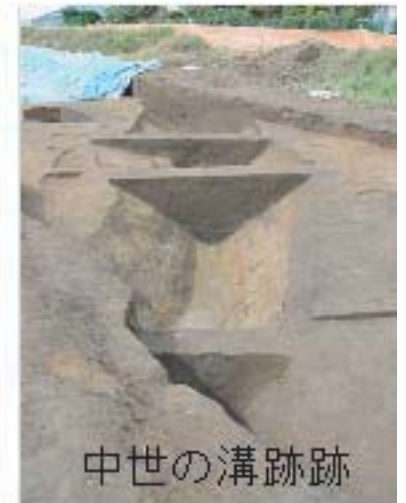
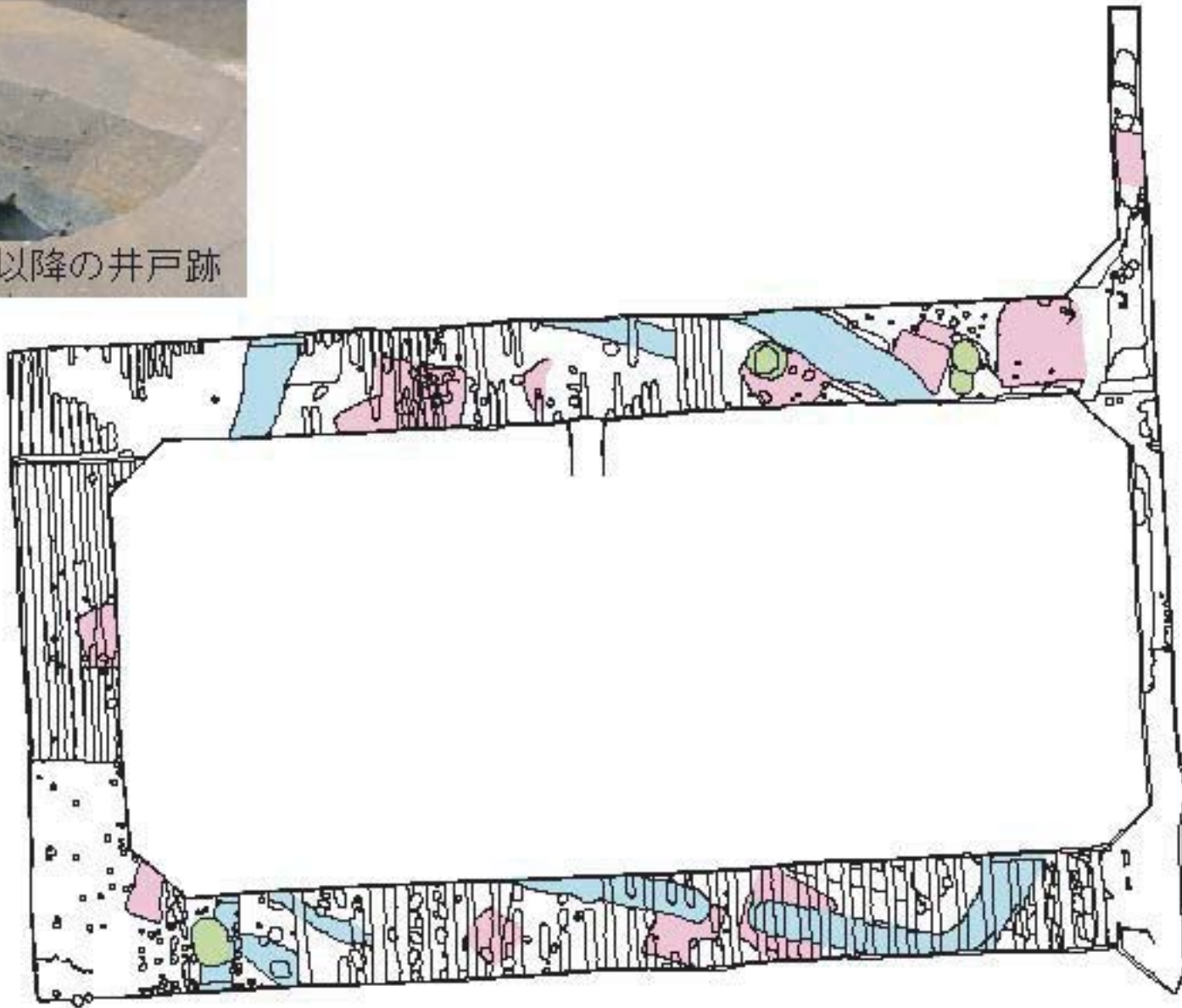
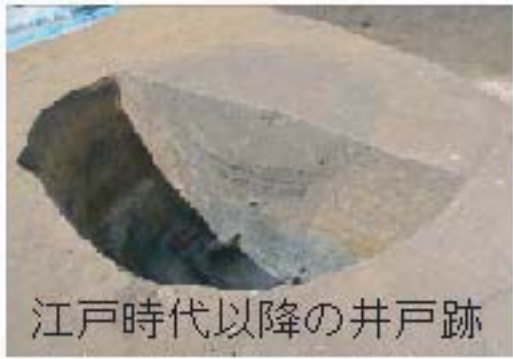
所在地：上余田字市坪

上余田遺跡はJR名取駅から北に約1.5kmの地点を中心に広がる遺跡です。標高は7～8mで、最も内陸側の浜堤上か、名取川が形成した自然堤防上に立地しています。

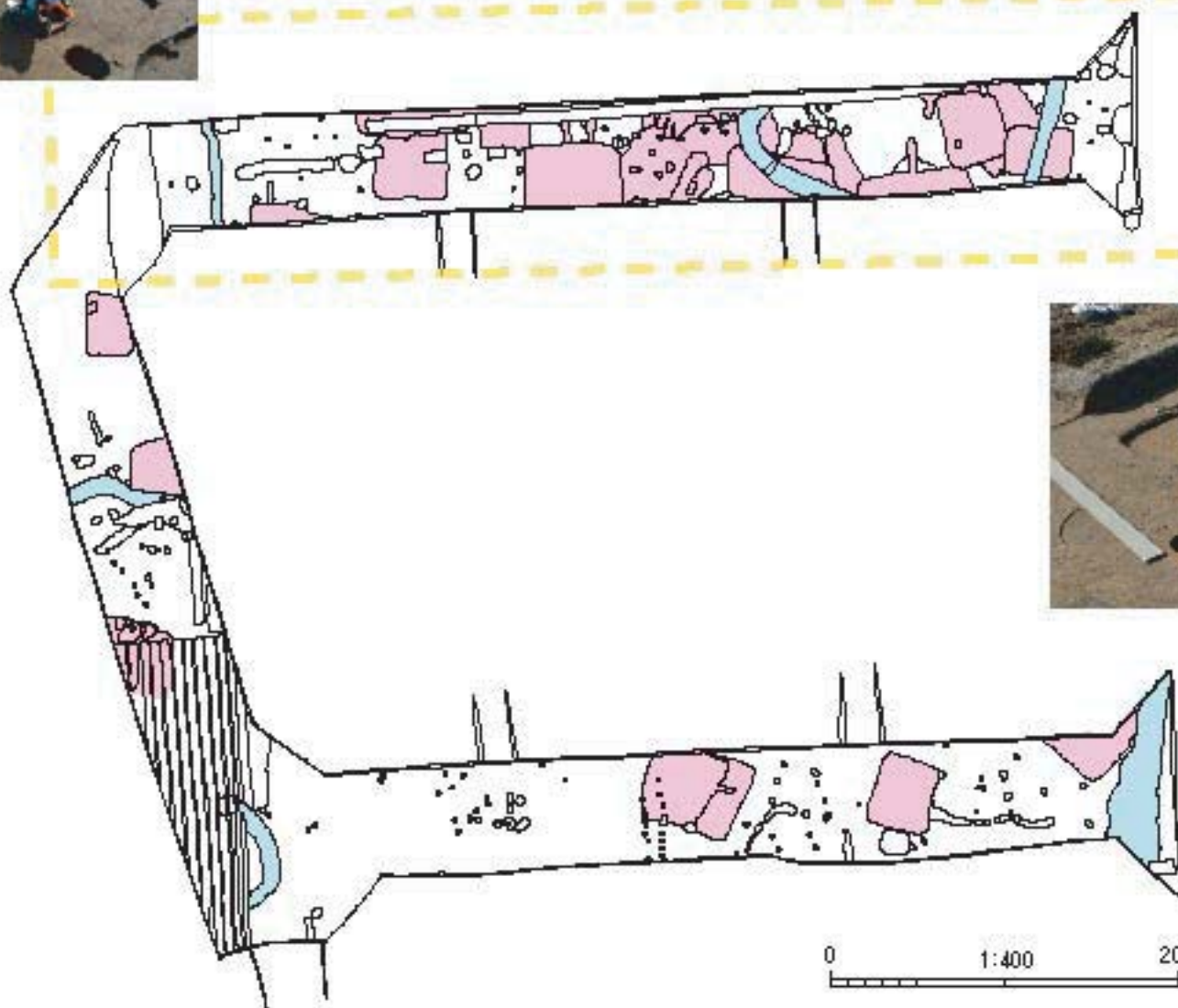
区画整理事業に伴い、昨年を確認調査（試掘）を行い、今年7月から本格的な

調査を実施しています。その結果、古墳時代・古代のたてあないこう 竪穴遺構（たてあなじゅうきょ 竪穴住居など）が20軒以上見つかったほか、中世の大きな溝や近世の井戸など、多くの遺構が見つかりました。また、弥生土器、古墳時代や古代の土器（はじき 土師器やすえき 須恵器）、中・近世の陶磁器、せきせいひん 石製品などが出土しています。

上余田遺跡発掘調査の遺構検出状況



調査区写真の範囲



凡例



竪穴遺構跡



井戸跡



溝跡



上余田遺跡発掘調査区の一部

「名取市歴史文化基本構想」

策定の準備を進めています

名取市では歴史文化基本構想策定に向けての事業を計画し、名取市歴史文化基本構想等策定委員会、名取市教育委員会、文化財保護審議委員会の体制のもと、名取市文化遺産活用地域活性化実行委員会を組織し、市民の方々にもご協力いただき、市内の文化財調査を実施しました。

27年度の調査事業として、歴史資料調査、歴史的建造物調査、古文書等調査、民俗・風習等調査を実施しました。

調査対象は、名取市の歴史文化を特徴づけていると思われる伝承地、名勝地などの歴史文化資源、街道や河口を活用した旧市街地について、その特徴を浮かび上がらせる建造物、民俗、文献等を主なものとししました。昨年度の調査結果及び本年度の調査について一部紹介します。

【文化財調査と体制】

	分野	調査対象	調査団体
1	歴史資料調査事業	伝承地、名勝地、旧跡、石造物など	名取市郷土史研究会
2	歴史的建造物調査	昭和20年以前の住宅、神社仏閣ほか建造物	なとり歴史的建造物研究会
3	古文書等調査	現存する文書、書籍、書、絵画など	名取古文書学習会
4	民俗・風習等調査	風習、民間信仰、民族芸能、民話など	名取昔ばなし語りの会

【歴史的建造物調査】

調査対象は503件で、「時代」の箇所が「不明」とあるのは、調査時点で建築年代が明確にできなかったもので、今後調査が必要な物件が対象となっています。

年代では、大正、昭和に建築されたものが60%以上です。江戸～明治にかけての建築物は年代の確定が困難なケースもあり、再調査により確定数が増えることも考えられます。

建造物の分類では農家が半数を占め、商家はごく少数にすぎません。民家、商家の分布は街道沿いの部分に多く、道路拡幅、開発等によるものと考えられます。また、震災の被害規模が大きかった地区では、多くの家屋が建て替えられ、大正以前に遡る建築物は現存しないところも見られます。

時代	件数	%	備考	分類	件数	%	備考
江戸時代	16	3%		社寺	58	12%	
明治時代	64	13%		民家	93	18%	
大正時代	168	33%		農家	272	54%	
昭和時代	151	30%		商家	5	1%	
不明	55	11%		その他	26	5%	
建替・解体	49	10%		建替・解体	49	10%	
	503	100%			503	100%	

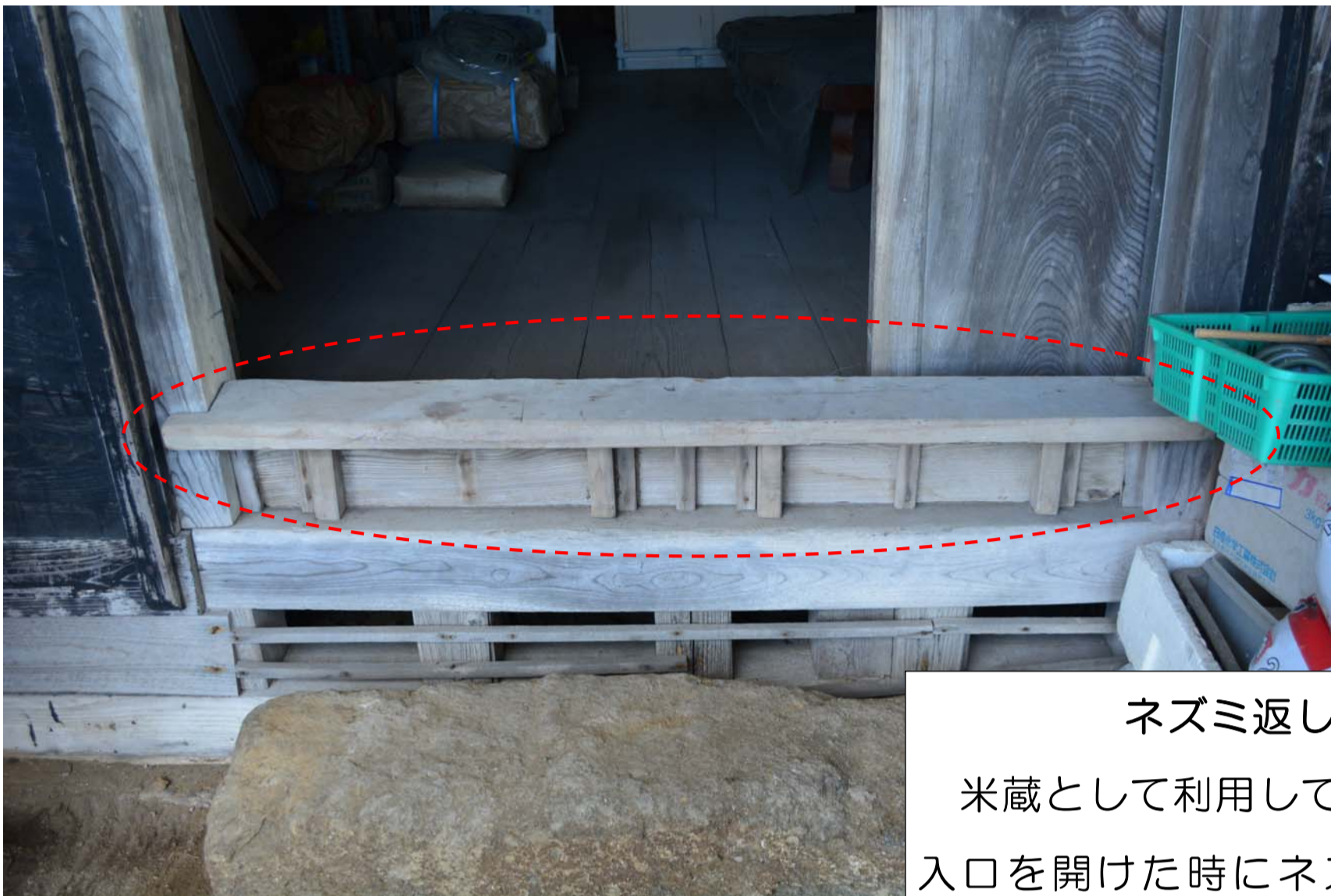
平成 28 年度の建造物詳細調査風景 (閑上牛野)



建物の実測中

建物は大正 2 (1913) 年に建てられたもので、米蔵として利用されていました





ネズミ返し

米蔵として利用していたため、
入口を開けた時にネズミが入ら
ないように設置するもの



鍵穴周辺のデザイン

鍵穴周辺に打ちでの小づち、巾
着など、多収を願って縁起の良い
小物を配置しています

おさんぽいーるどわーく

増田編



- 1 増田神社・衣笠の松
- 2 荘司邸の土蔵造り邸宅
- 3 鶴見屋の二階建土蔵造倉庫
- 4 第六天神社・第七天神(お堂)
- 5 奥州三十三観音第五番札所
- 6 耕龍寺 山門

✦ 道路沿いに蔵の見えるところ



板倉(いたぐら)

土蔵(どぞう)

■ 道路沿いに石碑のあるところ



5の奥州三十三観音が元々あった所の近所に、江戸時代につくられた石碑があります。馬頭観音(使役していた馬の供養のためのもの)があることで、昔から人の行き来が盛んだったことがわかります。

1 増田神社・衣笠の松 (市指定天然記念物)

増田神社は室町時代の文安年間(1444~1448)に、この地に来た菊地氏が大和国の社から分霊してお祀りしたのが始まりと伝わっています。のち、明治41年(1908)に増田神社と改称し、周辺の村の神社を合祀しました。

衣笠の松は江戸末~明治に増田北町検断をつとめた菊地氏の庭にあったもので、明治天皇の東北巡幸時、随行の木戸孝允が詠んだ和歌がきっかけで命名されました。昭和41年には市の天然記念物に指定されています。



2 荘司邸の土蔵造り邸宅

名取市の第3~6代市長をつとめた故荘司庄九郎氏の屋敷です。なまこ壁(※)の美しい模様が奥州街道から見られます。

(個人地のため、敷地内への立ち入りは許可を得てください)

(※) 土蔵の壁の塗り方の一種。防火、防水などの目的もある。



3 鶴見屋の二階建土蔵造倉庫 (市登録文化財)

江戸時代中期に創業された鶴見屋商店の土蔵です。明治10年(1877)頃に建築されたと伝わっており、平成8年には曳家と改修工事が行われました。

白塗りとなまこ壁のコントラストが往時の奥州街道の風情をしのはせてくれます。(個人地のため、敷地内への立ち入りは許可を得てください)



4 第六天神社・第七天神(お堂)

第六天神社は永正元年(1506)に創始の神社と伝わっています。社号の由来は増田に神代七代の神々を祀った際、第六天神(※)をおまつりしたことからと言われています。明治41年(1908)には村区にあった大宮神社を合祀しました。

また、増田七天神のうちの第七天神(守塚明神)も平成24年に境内に移築されています。

ほかに境内には庚申碑や山神碑など、地域の人々の昔ながらの信仰の記録である石造物も残されています。

(※) 馬塚明神。本尊は阿彌陀如来種子の板碑



5 奥州三十三観音第五番札所

名取熊野三社を勧請したと伝わる名取老女が定めたとされる「奥州三十三観音」の第五番札所です。本尊は千手観音です。元は増田二丁目にありましたが、所有者の移転により現在地に移りました。

(個人地のため、敷地内への立ち入りは許可を得てください)



6 耕龍寺 山門 (市指定文化財)

耕龍寺は応仁元年(1467)に慈源和尚が開山したと伝えられる曹洞宗の寺院です。慈源和尚は伊達家11世持宗公の五男であり、持宗公夫妻のお墓(※)と伝わる五輪塔も境内にあります。山門は伊達藩の家老、片倉家の居城だった白石城の門の一つを明治初期に移築したもので、東日本大震災で被害を受けましたが修復され、現在では堂々とした姿が見られます。

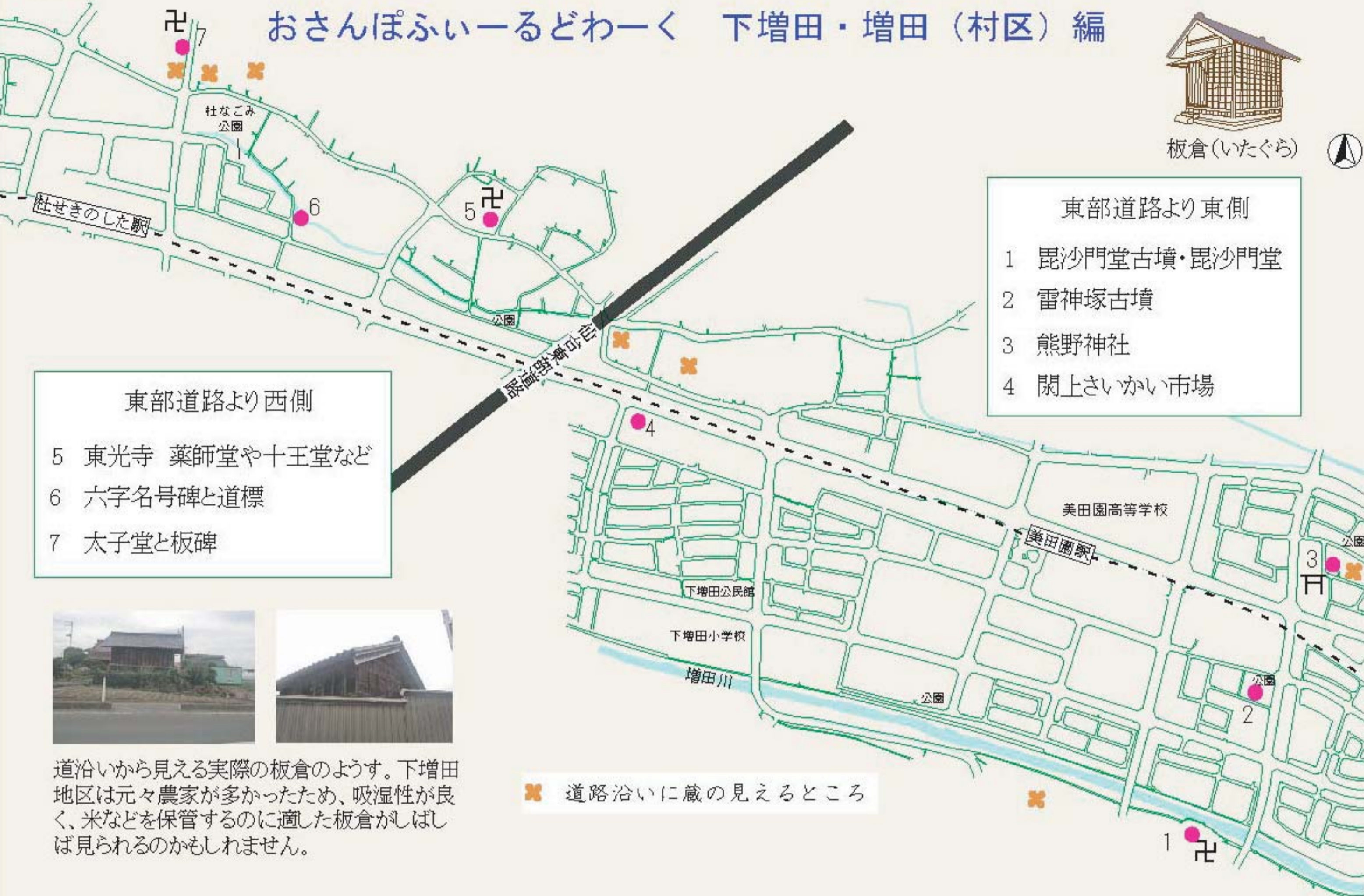
(※) 伊達持宗夫妻供養五輪塔。市登録文化財



おさんぽふいーるどわーく 下増田・増田（村区）編



板倉(いたぐら)



東部道路より東側

- 1 毘沙門堂古墳・毘沙門堂
- 2 雷神塚古墳
- 3 熊野神社
- 4 関上さいかい市場

東部道路より西側

- 5 東光寺 薬師堂や十王堂など
- 6 六字名号碑と道標
- 7 太子堂と板碑



道沿いから見える実際の板倉のようす。下増田地区は元々農家が多かったため、吸湿性が良く、米などを保管するのに適した板倉がしばしば見られるのかもしれませんが。

✖ 道路沿いに蔵の見えるところ

1 びしゃもん 毘沙門堂古墳・毘沙門堂

増田川右岸に接して現存する直径50m、高さ8mの古墳です。出土遺物からの推定の築造年代は5世紀中頃で、「下増田七塚」と昔呼ばれていた古墳の一つとされています。上部に並べられていたと思われる円筒埴輪や朝顔形埴輪が見つかっています。古墳の名の由来となった毘沙門堂入口には石碑が整然と並び、馬供養の馬頭観音や火伏せの信仰で有名な秋葉山などがみられます。



2 雷神塚古墳

美田園地区にある古墳で、直径30m、高さ5mの円墳です。墳丘は2段築成で、毘沙門堂古墳と同様に「下増田七塚」と昔呼ばれていた古墳の一つとされています。現在は美田園雷神塚公園として整備されています。



3 熊野神社

美田園地区にあり、以前の集落（下増田飯塚）の守護神だったと伝わっています。文化八年（1666）に本堂が造営されたという棟札が残っています。境内には他の神社と同様に、庚申碑や雷神碑などの地域での信仰の証が並んでいます。



4 ゆりあげさいかい市場

東日本大震災で被災した関上の復興の願いが込められた仮設店舗です。平成24年2月に営業を始め、4年を迎えました。飲食店以外にもお花屋さんや写真館、ヘアサロンなどいろいろなお店があります。まち歩きの休憩スポットにどうぞ。



5 東光寺 薬師堂など

仙台東部道路より西側の下増田地区にある真言宗の寺院で、館腰にある弘誓寺の末寺です。境内にある薬師堂には奉納された絵馬もあり、他に地藏堂や十王堂、市登録文化財で



ある石造宝篋印塔（供養等の一）もあります。江戸時代の石造物なども多く残り、当時の信仰のありさまが感じられる場所です。



5 六字名号碑と道標

杜せきのした駅近く、社なごみ公園の南東、下増田用水のほとりにあります。本来は村境にたてられていたもので、「南無阿弥陀仏」と名号の刻まれた道標です。下部に「東ハゆり上 南ハいわぬま 西ハました」とあり、文政12年（1829）の銘があります。



7 太子堂と板碑

増田中学校の東側、昔の下増田街道の近くにある小さなお堂と石碑。太子とは聖徳太子のことで、仏教を広めた人物として信仰を集めてきました。新しいお堂は今でも大切にされている証です。隣の石碑（板碑）には大日如来の種子しんじが刻まれています。





✦ 道路沿いに蔵の見えるところ

- 1 国重要文化財 洞口家住宅
- 2 天満天神社
- 3 八幡神社
- 4 丈六地蔵尊(オジョウロクサマ)
- 5 多賀神社

大曲地区では、一般的に「蔵」といって連想される「土蔵」(どぞう)の他にも、「板倉」(いたぐら)や、「石蔵」(いしぐら)という、材質によって呼び方の異なる蔵が現存しています。これらの蔵は、何のために使うか(米や味噌を貯蔵するため、本などを保管するため、稲の種籾を保管するためなど)によって、つくりわけがされています。

土蔵(どぞう)…壁を土で作った蔵。下部をなまこ壁といわれる塗り方で塗ったり、石材を組み合わせて建てたものもある。また、屋根に近い上部を家紋などの意匠で装飾したりすることもある。

用途としては、湿度や温度が一定に保たれるため、味噌や米の保管、本などの保管、また住居スペースとしても使用した(座敷蔵(さしきぐら))。

板倉(いたぐら)…木の板をつなぎあわせて作った倉。湿度を一定に保つ機能に優れる。稲の種籾などを保管するために使われた。食害防止のためにねずみ返しをついた板倉もある。柱をたくさん使った繁柱(しげばしら)と言われる形式の倉がよく見られる。

石蔵(いしぐら)…石のブロックを積み上げて作られた蔵。地元の石でつくったものや、仙台・秋保から石を取り寄せてつくったものなど、様々なものがある。

1 洞口家住宅 (国重要文化財・昭和46年指定)

大曲地区の旧家で、**桁行12間(25m)**、**梁間6間(11m)**で寄棟造りの茅葺屋根の主屋と、同じく茅葺の表門が目を引く国の重要文化財です。他にも主屋裏の座敷蔵と味噌蔵、道路南の米蔵の3棟の蔵や、屋敷をめぐる濠と北側のイグネが一体となって美しい風景を形づくっています。また、市登録文化財の木製消火ポンプも保存されています。



(見学を希望される場合はHPで確認してください)

2 天満天神社

天照大神を祀る神社で、小野という武士の守護神と伝わります。屋敷が個人所有になった際に廃されました。村人が再建したと伝わり、村の社のたずまいを残しています。



3 八幡神社

応神天皇を祀る神社で、明治42年(1909)多賀神社に合祀されましたが、社は木々に囲まれて現存しています。境内には数々の石碑があり、今でも手入れが行き届いていて心地いい場所になっています。



4 丈六地蔵尊 (オジョウロクサマ)

地元では「オジョウロクサマ」と呼ばれるお地藏様をまつたお堂です。別名せり咳の神様と呼ばれ、お地藏様をわらで縛って祈願する風習が伝えられてきました。

お堂のまわりには小さな古碑も集められており、この地も信仰の対象として大事にされてきたことがわかります。



5 多賀神社

関上町が東多賀村だった頃の地名の由来となった神社です。神社のある地域の北側には**皇壇ヶ原**という地名と、**日本武尊**が祭祀を行った場所という伝説も残っています。

また、平安時代に書かれた延喜式という古い記録にも書かれている、由緒ある神社とも伝わっています。

境内西奥には古碑や増田街道を新設するのに尽力した**増田繁華翁**の**顕徳碑**、拜殿には社名にちなんだタガも奉納されています。



道路沿いにこんな蔵(板倉)が見られます。